

## 第6章 端出場・東平ゾーン整備計画

### 「近代化産業遺産ミュージアム 近代化ロマンの体感空間」

#### 1. 端出場・東平ゾーンの現況

##### (1) 端出場・東平ゾーンの産業遺産集積状況

図-〈端出場・東平ゾーン〉周辺現況図 参照

##### 【文化財施設】

端出場ゾーンのマイントピア別子の施設内に国登録有形文化財が4箇所あります。旧泉寿亭特別室棟は、現在の別子銅山記念図書館敷地から移築保存され公開施設となっています。旧別子鉱山鉄道端出場隧道、旧別子鉱山鉄道端出場鉄橋（足谷川鉄橋）は保存され、観光鉄道の運行に活用されています。旧端出場水力発電所は、現在のところ非公開施設となっています。

遠登志橋は、平成5年に老朽化により明治時代のアーチ部分を残し、アーチに負荷がかからないように新しい橋が架設され保存されています。

##### 【その他の産業遺産】

マイントピア別子端出場ゾーン内には端出場採鉱本部の施設が多く残されています。第四通洞、端出場貯鉱庫、四通橋などが現存しています。その他、石積やトロッコ列車跡、レンガ造水路等も散在しています。

鹿森社宅跡には往時をしのばせるレンガ造の釜跡や浴場跡等遺構が残っており、歩いて散策できる道も残されています。鹿森会（鹿森社宅に住んでいた人の集まり）によるモニュメント等の整備や草刈り等維持活動がなされています。

マイントピア別子東平ゾーンは、「東洋のマチュピチュ」と呼ばれ観光人気が高まっており、東平貯鉱庫跡、索道基地跡、旧第三変電所、かご電車、小マンブ等が保存公開されています。マイントピア別子の敷地外にも病院跡、劇場跡、社宅跡等があります。

東平小学校と東平中学校の跡地には、教育研修施設「銅山の里自然の家」が立地し利用されています。また、採鉱本部の跡地には、メイン工房、東平歴史資料館が整備され公開されています。

別子鉱山鉄道上部鉄道関係では、唐谷三連橋に代表される線路跡や石ヶ山丈駅跡があり、角石原駅跡地には宿泊施設である銅山峰ヒュッテ（民間）があります。

地区の特長は、東平ゾーンが大正5年から昭和5年までの、端出場ゾーンが昭和5年から閉山の昭和48年までの鉱山の中心地であった採鉱本部が置かれていた場所であり、住友2代目の総理事であった伊庭貞剛の「別子全山を旧の青々とした姿にしてこれを大自然にかえさねばならない」という理念に基づく植林計画により、現在は静かな緑深い自然環境の中にあります。

端出場・東平ゾーンは、新居浜市随一の観光拠点です。

【主な施設写真】



旧端出場水力発電所



端出場鉄橋



第四通洞



旧端出場貯鉱庫



東平索道基地



東平貯鉱庫



東平歴史資料館



遠登志橋

<端出場・東平ゾーン>周辺現況図  
A 3 図面挿入

## (2) 端出場・東平ゾーン現況状況

### 博物館の開館状況

#### 【マイントピア別子本館鉦山観光】

住所	愛媛県新居浜市立川町 707-3
管理運営	株式会社マイントピア別子
開館時間	9時～17時
休館日	2月第3月曜日から1週間程度休以外年中無休
料金	観光坑道+鉦山鉄道 1200円
館内展示内容	鉦山鉄道は、明治26年に開通した索道施設を伴ったものとしては、我が国最初の鉦山鉄道を復活させたもので、延長410メートルの汽車の旅を終えると、観光坑道の入り口。鉦山の歴史や、近未来の様子を模型や人形、映像などで楽しみながら学習ができます。
屋外施設など	おみやげショップ、砂金採り、温泉保養施設等があります。

#### 【東平資料館】

住所	愛媛県新居浜市立川町 654-3
管理運営	株式会社マイントピア別子
開館時間	10時～17時
休館日	月曜日（祝日の場合は翌日休）、12月～翌2月
料金	無料
館内展示内容	山の町として栄えた最盛期の東平の生活文化をジオラマや写真・映像で紹介しているほか、銅に係わる様々な製品や鉦石、赤石山系の自然も紹介展示しています。
屋外施設など	マイン工房は、保安本部が置かれていたレンガ造りの貴重な産業遺産を活用したもので、銅板レリーフなど手作り体験できる工房です。

### (3) 端出場・東平ゾーンの現状の課題

- マイントピア別子内にトロッコ列車が放置されているなど近代化産業遺産資源が散見される。所有者である企業、施設管理者、地域の理解及び認知度が得られていません。
- マイントピア別子と、他地区の広瀬歴史記念館、別子銅山記念館、愛媛県総合科学博物館等管理者が異なる施設ですが、多様な主体者間の連携で産業遺産を学習、都市型観光に活用していません。
- 採鉱本部が置かれていた地区として、産業・生活・技術を顕す遺構がありますが、その素材を活かしたストーリー性を持った周遊観光、学びのプログラムがありません。現存する遺構を探索できる観光案内が不十分といえます。
- 市道河又東平線の通行性と安全性への配慮が必要です。
- マイントピア別子東平ゾーンの管理地外にある索道等近代化産業遺産を活用していません。また、マイントピア別子東平ゾーン外の観光案内施設が不足しています。

## 2. 端出場・東平ゾーンの保存活用方針

### (1) 保存活用の目的

■「採鉱本部跡地としてふさわしい資源保全に努め観光交流のにぎわいづくり」  
マイントピア別子のにぎわいと自然環境を楽しむ観光拠点づくり

#### □近代化産業遺産のストックを重視し観光拠点のにぎわいをつくる

採鉱本部のあった地区として豊富な近代化産業遺産ストックを重視し、新居浜市の観光拠点としてストーリー性のある周遊観光を実現させて、ヘリテージツーリズムとしての探索する喜びを持った施設活用により観光拠点のにぎわいづくりをつくります。

#### □ボランティアガイド等人材育成を行い観光交流の促進、近代化産業遺産の魅力向上につなげる

ストーリー性を持った周遊観光には不可欠なボランティアガイド等観光交流人材の育成と増加を図り、観光交流の促進、近代化産業遺産観光の魅力の向上につなげます。

#### □近代化産業遺産の学びや観光周遊等着地型観光を促進させ地域交流を活発化させる

広瀬歴史記念館等博物館及び本物の近代化産業遺産施設をネットワーク化し学習や観光周遊を促進させるために、統一されたサイン計画や案内板、プログラムの連携を図ることで地域交流を活発化させます。

#### □整備された施設を有効に活用すること

マイントピア別子の整備された施設を有効に活用することで、自然環境の体験など近代化産業遺産以外の観光交流の幅を広げて着地型観光の促進を図ります。

## (2) 近代化産業遺産保存方針

### ■ マイントピア別子近代化産業遺産の価値保存

- 現存する近代化産業遺産施設の積極的な保存に向けて所有者及び管理者等との協議、保存することが望ましい施設については所有者及び管理者等との合意形成を図り保存します。
- 近代化産業遺産を文化財保護の視点でその価値を保存します。文化財とする場合、所有者に対する配慮として補助、税の優遇など支援策を提案します。また、消失している近代化産業遺産や掘り起こした近代化産業遺産の説明板を追加し価値保存を進めます。
- マイントピア別子東平ゾーンの病院跡、劇場跡等管理地に接している近代化産業遺産で一体の周遊観光に適している施設については、所有者と管理等について協議し保存します。

### ■ 索道、上部鉄道、社宅等の価値保存

- マイントピア別子管理地外に現存する索道、上部鉄道、社宅等の近代化産業遺産については通行することが望ましくない箇所もあり、また現況が崩れつつある箇所もあるため、現地調査を行い、資料として保存します。

### ■ 旧端出場水力発電所の価値保存

- 登録有形文化財である旧端出場水力発電所と発電機等の館内備品の価値調査を実施し重要文化財を目指します。
- 施設の公開を行う場合には、アクセス路（橋）、館内の展示資料の整備、管理体制等についても検討を進めていきます。

### ■ 環境配慮に尽くした価値保存

- 100年以上前からエコのまちと言われるように、別子全山が元の自然を取り戻し現在の自然環境を形成しています。端出場・東平ゾーンの観光拠点としてのブランド力を高めるためにも自然との共生について体感できる価値保存をします。
- 端出場・東平ゾーンは、自然学習、環境対策、鉱物資源、産業技術、社宅生活、企業運営と銅山経営の全てが凝縮された地区であり、学習・研究素材として価値保存します。

### ■ 森林環境の保全

- 森林の適正な管理について所有者と協議し、都市計画、特に国土利用計画の土地利用の適正な運用を図り森林環境の保全に努めます。

### (3) まちづくり活用方針

#### ■ 着地型観光と景観形成 別子往還道の観光街道活用

- 端出場から立川を経て銅（あかがね）の道で口屋までを結ぶ道を別子往還道と位置づけ、歩きや自転車周遊する地域交流と都市計画との連携による景観保全を図り歴史文化の道として保存活用します。
- 近代化産業遺産案内や情報発信、街道観光をPRするイベント実施等プログラムを導入し着地型観光への活用を図ります。

#### ■ 学びの場 ミュージアムリンク

- 広瀬歴史記念館、別子銅山記念館等他地区の博物館等と異なる主体者間で連携を図りプログラム等のネットワーク化による学びと周遊観光の活用を図ります。また、文化財となっている近代化産業遺産をネットワーク化し、文化財巡りプログラムや展示プログラムを連携し、周遊の学びにスタンプラリーなどアイデアを盛り込んで積極的な学びの活用を行います。

#### ■ エコミュージアム

- 端出場・東平ゾーンの観光拠点としてのブランド力を高めるために、企業が環境との共生を図ってきた歴史的価値を活用し、エコミュージアムとした環境共生を体感できる学習プログラムを導入し、観光拠点のイメージを高めてPRをします。

#### ■ 協働のまちづくり ボランティアガイドやインタープリター\*の育成

- ボランティアガイドやインタープリターを育成し近代化産業遺産観光交流、自然体験プログラム等新しいプログラム運営を展開し観光拠点の活性化を図ります。

#### ■ 無形文化財の保存活用

- 別子銅山閉山後しだいに体験者の記憶が失われつつあり、地域生活文化の積極的な記録保存を進めその記録の公開など活用します。

### 3. 端出場・東平ゾーンの整備方針

図-〈端出場・東平ゾーン〉整備計画図 参照

#### ■ 着地型観光の促進 統一されたサイン計画、案内板、産業遺産説明板の充足

- 市内統一誘導サイン、観光案内はマイントピア別子内の案内施設等を考慮し整備を図ります。
- 産業遺産説明板は八十八箇所に充足させ、周遊の面白みを作り、イベント等活動基盤を作り着地型観光を活性化させていきます。

#### ■ 近代化産業遺産調査価値保存

- 近代化産業遺産の現地調査や資料調査を行い史跡保存に努め、必要であれば、史跡もしくは文化財として適切に保護政策を施し、現地に説明板等整備を図ります。

#### ■ 街道観光 別子往還道の調査計画

- 街道の調査を進め、他地区と同様に産業遺産案内を設置する等周遊観光の基盤づくりを行います。
- 愛媛県と連携し歴史文化の道づくりを進めます。沿道の景観保全や道路交通計画等具体的な保存活用を計画し、市内に分布する近代化産業遺産のネットワーク化を図ります。

#### ■ 協働のまちづくり まちづくり体制づくり

- 主体者の異なる博物館を連携しプログラム共有、博物館学びのネットワーク化と施設の利用促進、都市型観光促進に向けて、主体者、管理者、ボランティアガイド等で組織体制づくりを進めます。
- 端出場・東平ゾーンのエコミュージアム化、無形文化財の保存、地域教育との連携など協働のまちづくりの活動支援、近代化産業遺産の普及啓発活動、ボランティア育成市民団体への支援等まちづくり体制をつくります。

<端出場・東平ゾーン>整備計画図  
A 3 図面挿入

## 4. 旧端出場水力発電所保存・活用・整備方針

### (1) 旧端出場水力発電所保存活用の目的

#### 「赤煉瓦造の優美な景観保全と雄弁な産業革命の証」

##### 【重点保存活用整備】

- ・旧端出場水力発電所
- ・煉瓦造建屋-
- ・ジーメンスシュッケルト社製発電機
- ・他内部機器

端出場地区は昭和48年別子銅山閉山時の「最後の採鉱本部」と「社宅」が置かれていた地区として保全管理し、マイントピア別子敷地内の鉱山鉄道、水力発電など産業革命を物語る施設の充実を図ることで観光と学びの拠点づくりを目指します。



図-端出場地区平面図

#### 旧端出場水力発電所 1階平面図

変圧器(新居浜製作所製 1929年)

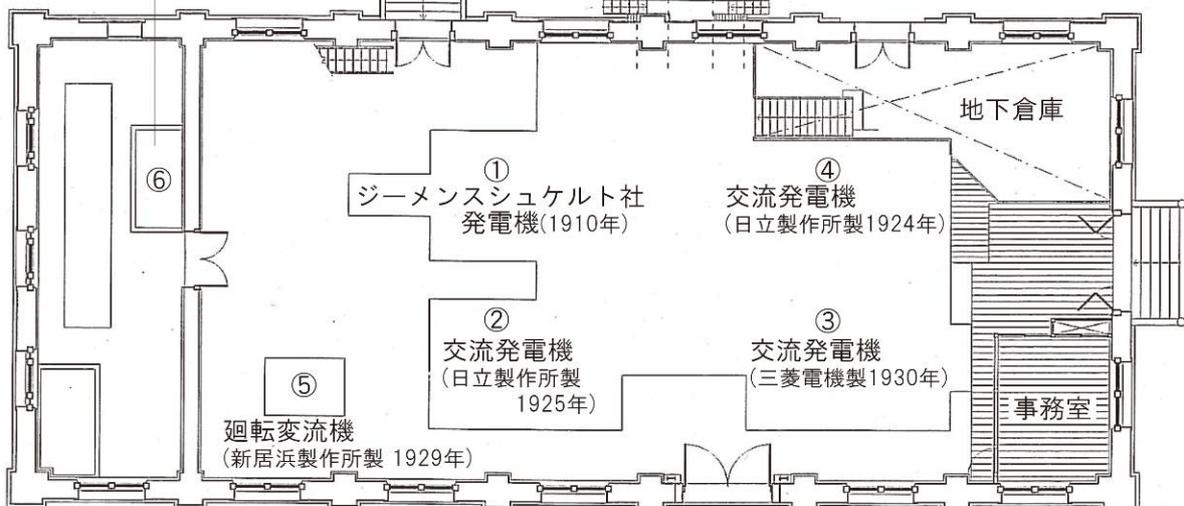


図-端出場地区平面図

## (2) 保存方針

### ■ 近代化産業遺産施設継続活用型保存

- 旧端出場水力発電所保存活用検討委員会の答申及び市民アンケート結果等を考慮したうえで、公開施設とするべきかどうか判断します。公開施設となった場合には、耐震をはじめとする公開に向けた館内外の整備が必要です。

### ■ 国重要文化財の認定

- 現在登録有形文化財である旧端出場水力発電所は、調査を経て国重要文化財認定を目指し、歴史まちづくり法への方向付けする重要な施設です。国内で文化財となっている水力発電施設は27件、そのうち重要文化財が4件あり、残存状況と鉱山経営のための発電所といった希少性から重要文化財になりうると思われます。

### ■ 施設調査と価値評価に基づく施設保存の立案

- 発電機及び付帯施設、建造物の価値評価、耐震診断による調査を実施します。

### (3) 活用方針

#### ■ 旧端出場水力発電所景観保全活用

- 赤煉瓦造の建屋は端出場地区に現存する近代化産業遺産の中では往時をしのばせる象徴的な景観であり、建屋と周囲がなじむ維持活用と「見せる景観形成」を図ります。

#### ■ 雄大な産業革命を物語る博物館活用

- 旧端出場水力発電所を電源開発・動力開発史料展示施設として活用。「採鉱」「運搬」「社宅」点在する近代化産業遺産施設の資料及び観光案内充実化を図ります。

#### ■ オーラルヒストリーによる体験者の記録保存と資料展示活用

- 最後の採鉱本部である近い過去を体験者からオーラルヒストリー（口承）記録保存と資料展示によるマイントピア別子の観光拠点の充実化を図ります。

#### ■ 観光拠点（銅山の玄関口）

- マイントピア別子周辺の近代化産業遺産の観光ネットワーク化を図り、観光交流の拠点として交流人口の増加を図り商機能、物産等のクオリティ向上、観光案内の充実を図ります。

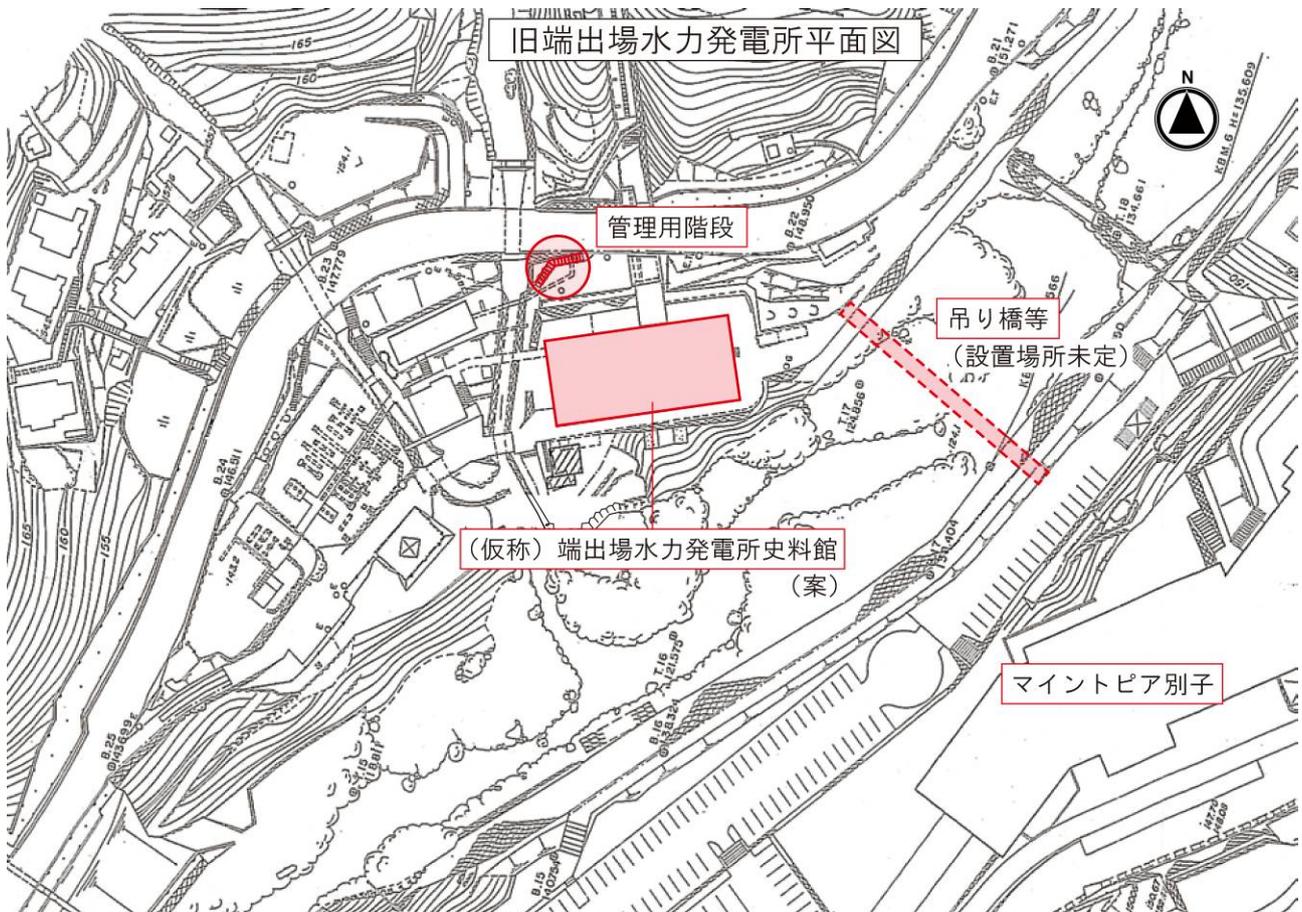
#### ■ コミュニティ活動の拠点

- 地域学習、生涯学習の機能、近代化産業遺産の機能転用し、日常的に利用できる地域コミュニティ活動拠点として活用します。

#### (4) 整備方針

##### ■ アクセス路整備

- 旧端出場水力発電所へのアクセス整備として、県道側からのアクセスは路面と敷地に高低差があり傾斜勾配がきつく敷地内で車いす対応の設計基準に見合う高低差処理が不可能であることがわかり、対岸のマイントピア別子側からの人道橋架設によるアクセスを整備方針とします。
- マイントピア別子との一体的な管理方針とします。



##### ■ 旧端出場水力発電所のライトアップ

- ライトアップを行いレンガ造の魅力をPRし観光拠点としての活性化を図ります。



写真-旧端出場水力発電所ライトアップ

## (5) 展示施設の参考事例

### 1) 琵琶湖疏水記念館 京都市

#### 【施設概要】

「京都における産業の近代化の歩みを物語る琵琶湖疏水などの近代化産業遺産群」として経済産業省の近代化産業遺産に認定された施設の一環である。近代化産業遺産認定施設は、琵琶湖疏水、琵琶湖疏水記念館所蔵資料、南禅寺境内水路閣、蹴上インクライン、蹴上浄水場である。



写真-琵琶湖疏水記念館

住所	京都市左京区南禅寺草川町 17
管理運営	京都市上下水道局
開館時間	3月1日～11月30日 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 12月1日～2月末日 午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
休館日	月曜日(月曜日が休日・祝日の場合は翌日及び年末年始)
料金	無料
館内展示内容	館内には明治時代に完成した「第一疏水」の計画図や、工事のスケッチ、疏水の全景図などや、発電所やインクラインの模型など、疏水についてのいろいろなことがわかるように展示されています。中庭には、疏水の完成時から日本初の水力発電所であった蹴上発電所で発電に使われていた大きなペルトン水車や発電機が置かれています。また、インクラインや疏水の景観も楽しめるようになっています。

#### 【館内の展示状況】



- 左上：館内の大型の展示資料
- 右上：館内の復元模型の展示
- 左下：屋外に水車と発電機を展示

## 2) 三居沢電機百年館 仙台市

### 【施設概要】

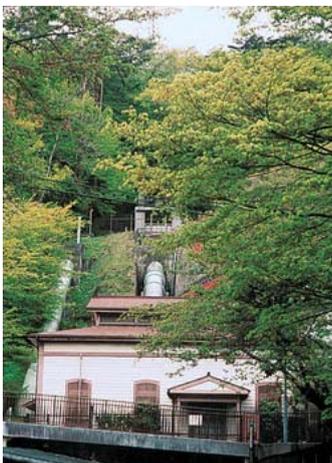
明治 21 年(1888)7 月 1 日、三居沢にあった宮城紡績会社が、紡績機用の水車を利用して東北地方で初めて電機のあかりを点した。日本最初の水力発電の発祥であった。以来、三居沢発電所は、仙台市電気部、東北配電株式会社などを経て、昭和 26 年東北電力株式会社に継承され現在もなお最大出力 1000 キロワットで運転を続けている。国登録有形文化財。経済産業省の近代化産業遺産に認定。



写真-三居沢電機百年館

住所	仙台市青葉区荒巻字三居沢 16
管理運営	東北電力株式会社
開館時間	午前 10 時～午後 4 時
休館日	月曜日（月曜日が休日・祝日の場合は翌日及び年末年始）
料金	無料
館内展示内容	壁面の一部がガラス貼りになっており、稼働中の発電機を見学できる。当時の 5kW 直流発電機と同型モデルの複製品が展示されており、電気事業の歴史が紹介されている。

### 【館内の展示状況】



- 左上：余水管と水圧鉄管の展示
- 右上：水車発電機室内部（発電機とフランシス水車）
- 左下：建屋と水圧管